

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
5	1	4	土地改良費	282

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	土地改良
事業目的	土地改良施設（用水路、ため池等）の機能を確保する。
事業内容	<p>●事業の全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土地改良施設（用水路、ため池等）を適切に維持管理する。</li> </ul> <p>●主な事業内容</p> <p>○土地改良（排水）事務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電気料金（ポンプ場、転倒堰） 990,141円</li> <li>ほ場整備確定測量成果データ化業務委託 1,045,000円</li> <li>ため池防災支援システム利用料 66,000円</li> <li>濃尾用水地区用排水対策協議会負担金 2,000円</li> <li>尾張西部排水対策推進協議会負担金 10,000円</li> </ul> <p>○土地改良（排水）施設管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>揚水機場保守点検委託（一本杉ポンプ場外4箇所） 550,000円</li> <li>土地改良施設維持管理委託 12件 2,977,040円</li> <li>ため池草刈等業務委託（亀割大池外） 29件 5,091,430円</li> <li>ため池水位監視システム観測機器保守点検業務委託 297,000円</li> <li>土地改良施設維持工事（地元要望等） 34件 10,684,080円</li> <li>木津用水排水負担金 7,923,000円</li> <li>木津用水路汚水処理施設維持管理費負担金 6,989,000円</li> <li>入鹿用水土地改良区施設維持管理負担金 4,858,460円</li> </ul>
事業の成果・効果	土地改良施設（用水路、ため池等）の補修工事、除草、浚渫や施設点検などの実施により、農業用水の供給や排水機能が著しく滞る事がなく、管理することができた。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

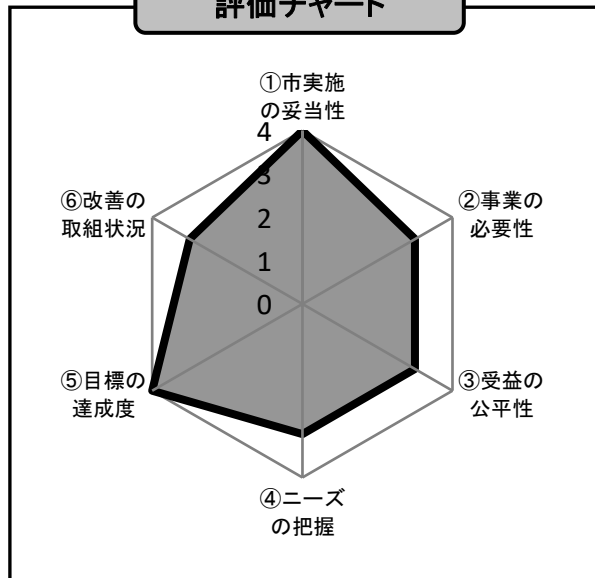
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
土地改良（排水）事務	2,133	228	1,905	89%	3	3	3
土地改良（排水）施設管理	39,774	0	39,774	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	41,907	228	41,679	99%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		43,021	41,907	43,756
財源内訳	国県支出金	100	169	102
	地方債	0	0	0
	その他	45	59	45
	一般財源	42,876	41,679	43,609
一般財源の割合		100%	99%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	用水路、ため池等の管理は、犬山市法定外公共用物の管理に関する条例第2条の規定により、市が行う。
②事業の必要性	3	農業用排水路やため池は、地域の雨水排水や洪水調整池としての機能も有しており、農業従事者のみならず、市民生活の安心・安全にも寄与する事業であり、優先度は高いと考える。
③受益の公平性	3	農業用排水路やため池は、地域の雨水排水や洪水調整池としての機能も有しており、事業効果は農業従事者のみならず広範囲に及ぶ。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	危険箇所や通水上支障がある土木要望を優先的に実施した。水路関係の令和4年度要望実施率は56.6%で、年度目標値40%を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	故障すると取水困難や水害の要因となる堰・ゲート等については、農閑期に点検を行い、計画的に補修を行う。用水路の補修は、地元要望に基づき緊急性など優先度を考慮しながら実施する。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	堰・ゲート・ため池の補修計画を策定するために施設点検を行った。
令和5年度に見直しを実施している事項	堰・ゲート・ため池の補修計画を策定する。
今後見直しを検討する事項	計画に基づき堰・ゲート・ため池の補修を実施する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
各施設の老朽化	堰・ゲート等については、農閑期に損傷具合や動作確認等の点検を行い、次年度の取水時期に備える。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	1	1	土木総務費	300

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	土木管理事務
事業目的	土木施設（道路及びその付属施設等）の継続的な維持管理を適切かつ効果的に実施する。
事業内容	<p>●事業の全体計画 土木施設（道路、水路、公園等とその付属施設）の継続的な維持管理を適切かつ効果的に実施する。</p> <p>●主な事業内容</p> <p>○土木管理事務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報酬 土木常設員報酬（44名分） 1,364,000円</li> <li>・光熱水費 電気料金（街路灯、道路照明灯、観光街路灯等） 21,891,799円</li> <li>・役務費 火災保険料（道路管理賠償責任保険料） 963,880円</li> <li>・委託料 測量登記委託（道路内民地処理、道路水路境界確定） 5,002,082円</li> <li>境界確定資料等電子化業務委託 1,055,923円</li> <li>道路台帳更新委託（台帳データ等年度更新、背景現況図更新） 8,965,000円</li> <li>統合型GIS排水路データ取込業務委託 1,848,000円</li> <li>・公有財産購入費 土地購入（道路水路等の用地整理） 1,708,128円</li> <li>○公開型GISシステム運用</li> <li>・公開型GISシステム更新業務委託 1,309,000円</li> <li>道路台帳情報更新、検索用地番図、施設検索情報更新</li> <li>・公開型GISシステム拡張業務委託 2,211,000円</li> <li>用排水路台帳データを最新版に修正し公開型GISシステムへ追加搭載</li> <li>・公開型GISシステムサービス使用料 550,000円</li> <li>ASP使用料（サーバー保守及び使用料）</li> </ul>
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路、水路、公園等の占用・承認工事等の各種許認可申請の処理、道路台帳の更新、官民境界確定、道路内民地処理等を適正に実施している。</li> <li>・令和2年度末に運用を開始した犬山市地図情報ポータルサイト「ワンマップ」により、道路台帳情報を公開型GISによってWEB公開の運用をしている。また、排水路データを取り込みシステムの拡張を行っている。</li> </ul>

II : 個別事業内訳

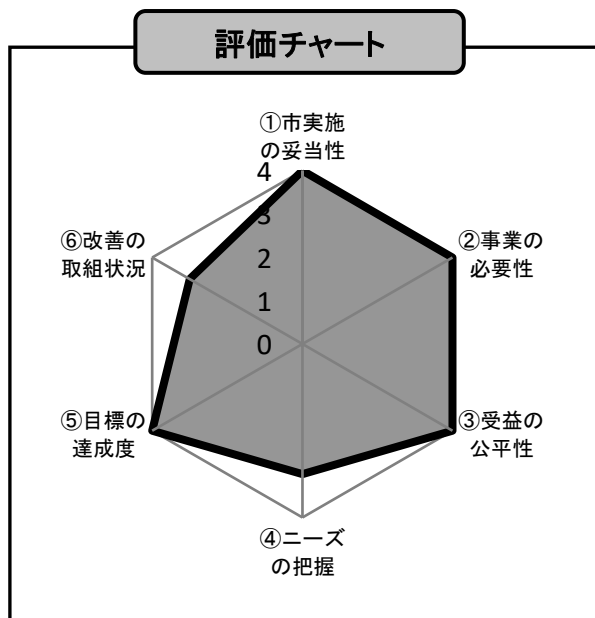
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
土木管理事務	44,499	35,962	8,537	19%	3	4	4
公開型GISシステム運用	4,070	0	4,070	100%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	48,569	35,962	12,607	26%	3	4	4

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		39,436	48,569	55,062
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	36,658	35,962	31,900
	一般財源	2,778	12,607	23,162
一般財源の割合		7%	26%	42%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	市道の管理については、道路法第16条により市が実施することとなる。
②事業の必要性	4	道路等の維持管理には用地の適正管理が必要不可欠である。
③受益の公平性	4	行政財産である道路を適正に管理するための測量・境界確定は、市民の財産を保全する役割を有している。
④ニーズの把握	3	道路、水路、公園緑地その他付属設備の改善・修繕について地元(市民)からの要望を土木常設員や通報により把握している。
⑤目標の達成度	4	道路、水路、公園等の占用・承認工事等の各種許認可申請の処理、道路台帳の更新、官民境界確定、道路内民地処理等の管理事務を年間通じて適正に行っている。
⑥改善の取組状況	3	来庁しなくてもよい仕組みの一つとして公開型GISを用いて道路台帳情報をWEB上で公開しており、その情報の充実を図っている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	犬山駅東のからくり時計前広場を市民や事業者が気軽に活用する空間として運用を開始した。また、公開型GISに道路側溝や用排水路の情報を追加し更なるユーザーの利便性を図った。
令和5年度に見直しを実施している事項	使用料等の債権管理を令和4年度策定の当課ガイドラインにより適切に運用するとともに、銀行口座引落とし等債務者の利便性の向上も検討する。
今後見直しを検討する事項	今後も土木管理事務全般事業について、必要性、改善点、コスト面について検討を行なう。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
窓口での許認可事務処理では、国・県・他市町の先進事例でも電子化への対応に関して、コストに比べ事務の簡素化等に繋がらない状況となっている。	最新動向を注視しながら、費用対効果も踏まえて市民等の利便性向上に向け研究していく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	302

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	道路維持修繕
事業目的	ライフラインである道路を安全で快適に利用できるよう適正に維持管理する。
事業内容	<p>●事業の全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路、舗装、側溝などの新設・改修・維持補修等を行い、施設の適正管理に努める。</li> <li>道路面の凸凹、側溝のふた割れ等危険な箇所は、速やかに補修し、事故防止に努める。</li> <li>施設の劣化が激しく広範囲に及ぶ路線は、年度計画を立て予算を平準化しながら実施する。</li> <li>地元要望に応じて街路灯の新設、維持修繕を行うことで、安心・安全なまちづくりに寄与する。</li> </ul> <p>●主な事業内容</p> <p>○道路補修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路維持工事 198件 49,799,220円</li> <li>舗装維持補修工事 32件 27,846,500円</li> <li>道路改修工事 4,540,800円</li> <li>市道橋爪2号線</li> <li>道路側溝改修工事（計画的な道路側溝改修） 6,622,000円</li> <li>市道犬山214号線、市道橋爪中線、市道橋爪4号線</li> <li>舗装改修工事（計画的な舗装改修） 85,657,000円</li> <li>市道犬山公園小牧線、市道赤坂堂前線外1、市道犬山41号線、市道羽黒西114号線外2、市道楽田東45号線、市道楽田東50号線</li> </ul> <p>○道路交通安全施設修繕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>街路灯設置工事 5件(40基) 1,003,200円</li> <li>道路安全施設維持工事 44件 8,361,298円</li> <li>街路灯維持工事 61件 5,321,679円</li> <li>LED道路照明灯借上料(平成30年12月1日～令和10年11月30日) 1,775,520円</li> </ul>
事業の成果・効果	地元要望や改修計画に基づき、舗装・側溝・防護柵など道路施設の維持補修により、ライフラインである道路を安全で快適に利用できるよう維持管理を行った。

II : 個別事業内訳

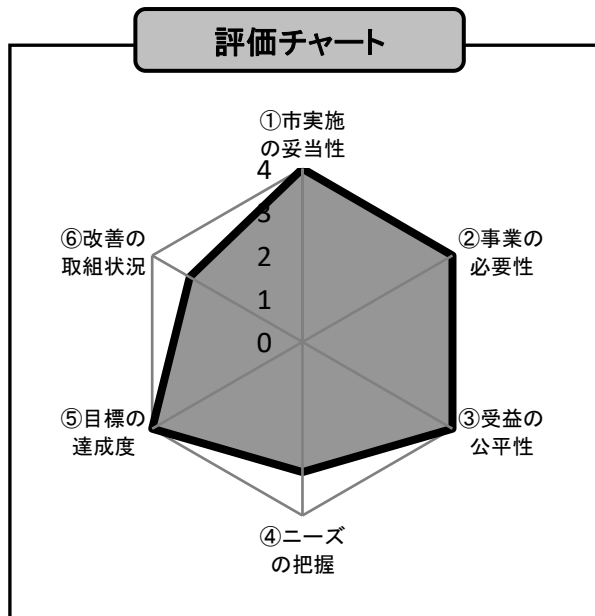
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
道路補修	177,294	30,733	146,561	83%	3	3	3
道路交通安全施設修繕	16,583	0	16,583	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	193,877	30,733	163,144	84%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		161,417	193,877	217,466
財源内訳	国庫支出金	0	11,126	24,000
	地方債	0	10,000	21,600
	その他	7,733	9,607	10,173
	一般財源	153,684	163,144	161,693
一般財源の割合		95%	84%	74%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路施設を対象としており、不特定多数が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望書により、利用者の要望(ニーズ)を把握している。
⑤目標の達成度	4	道路関係の令和4年度要望実施率は64.7%で、当初目標値60%を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	限られた財源内で、適切な維持管理を行うため、事業の緊急性・必要性などに、地元要望の優先順位を考慮しながら実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	財源を確保するため、舗装改修工事(市道犬山公園小牧線)については整備計画を策定し、令和4年度から国庫補助事業とした。
令和5年度に見直しを実施している事項	道路の舗装、側溝の劣化進行状況や他事業(水道・下水道等)との調整などによる、既存の改修計画の見直しを行う。
今後見直しを検討する事項	道路の舗装、側溝以外の道路施設全般について改修計画の策定を検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
道路施設の老朽化対策	道路施設の老朽化が進み、今後大規模な改修工事が想定されるため、改修計画策定の基礎となる施設点検、現状把握の実施を検討する。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	302

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	道路施設等管理
事業目的	道路を安全で快適に利用できるよう清掃及び街路樹剪定や除草等による道路施設の維持管理を行う。
事業内容	<p>●事業の全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路パトロールによる簡易な補修、路肩の除草、幹線道路の路面清掃、道路植栽帯の街路樹剪定や除草など、道路を安全に通行利用できるよう適正に施設管理を行う。</li> <li>令和4年9月5日(月)に城下トンネル壁の剥離による落石が発生し、現在通行止めにしており、早期改修するため、調査・修繕設計を行う。</li> </ul> <p>●主な事業内容</p> <p>○道路施設等管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消耗品費(凍結防止剤、保安用品等) 663,867円</li> <li>道路作業業務委託(市内全域 道路パトロール・作業等) 9,460,000円</li> <li>道路雪氷対策委託(市道名古屋犬山線外30) 2回分 3,708,286円</li> <li>路面清掃作業委託(1・2級 道路路肩 年1回) 1,265,000円</li> <li>側溝浚渫委託 3件 515,900円</li> <li>土のう回収委託(町内清掃等による土のう袋回収処分) 25件 1,912,900円</li> <li>トンネル調査・修繕設計業務委託(城下トンネル) 0円</li> </ul> <p>※委託料 18,643,900円は令和5年度へ全額繰越し</p> <p>○道路植樹等管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路植栽帯管理業務委託(市道名古屋犬山線外35) 10,780,000円</li> <li>道路除草委託 25,010,000円</li> <li>街路樹剪定委託 8,402,900円</li> <li>倒木処理・はみ出し枝処理委託 6件 1,774,300円</li> </ul>
事業の成果・効果	道路パトロールや簡易な路面補修、路面清掃、路肩や道路植栽帯の除草、街路樹剪定、雪氷対策などの維持管理業務を実施し、年間通じて道路を安全に通行・利用できるよう、職員および業務委託により行った。

II : 個別事業内訳

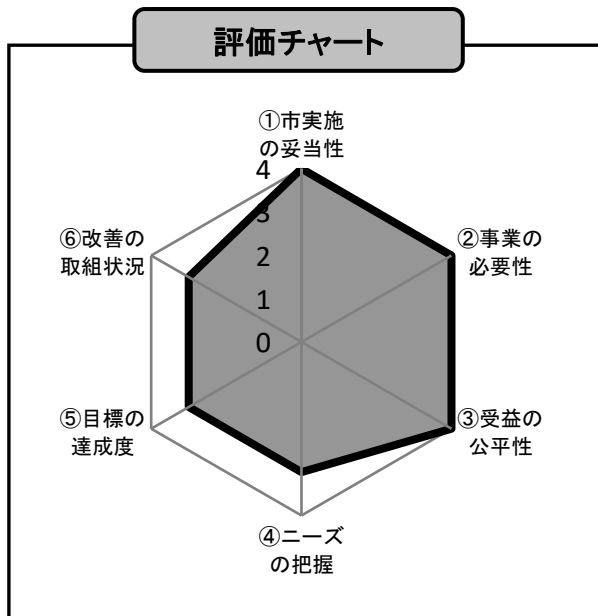
(単位:千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
道路施設等管理	17,584	0	17,584	100%	3	3	3
道路植樹等管理	46,033	0	46,033	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	63,617	0	63,617	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		61,171	63,617	176,182
財源内訳	国県支出金	0	0	28,451
	地方債	0	0	20,900
	その他	0	0	0
	一般財源	61,171	63,617	126,831
一般財源の割合		100%	100%	72%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路施設を対象としており、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望書により、利用者の要望(ニーズ)を把握している。
⑤目標の達成度	3	年間の維持管理業務は概ね予定どおりに行うことができた。除草や街路樹剪定については、通行に支障がある箇所を優先的に実施している。
⑥改善の取組状況	3	事業の妥当性、維持管理コストの検討等を考慮しながら実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	街路樹の老朽化、大径木化により、道路利用者の安全性を考慮した維持管理が求められることから、道路通行者の視距を妨げ事故の要因となりうる、交差点や横断歩道付近などの街路樹撤去計画を策定した。
令和5年度に見直しを実施している事項	道路通行者の視距を妨げ事故の要因となりうる、交差点や横断歩道付近などの街路樹撤去を計画的に進める。
今後見直しを検討する事項	交通安全上支障となりうる街路樹を撤去した後に、道路植栽帯の雑草繁茂対策として張コンクリート等を施し、乱横断を防止するための防護柵の設置を検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
道路の草刈りについては、高齢化等で地域の方々による実施が困難となったことなどにより、要望が増加している。	除草委託や張コンクリート・防草シート等による雑草繁茂抑制対策など現場状況に合った手法を検討する。また、ボランティア活動を継続していただけるよう支援策の拡大についても検討する。



令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	302

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	駅前広場維持管理
事業目的	駅前広場施設を適正に維持管理し、利用者の安全を図る。
事業内容	<p>●事業の全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃など日常的な管理業務により、駅利用者等が快適に利用できるよう努める。</li> <li>・定期点検により発見された施設の不具合については、速やか修繕を行う。</li> <li>・犬山駅東西連絡橋の長寿命化を図るため、施設点検（5年毎）結果に基づき計画的に改修を行う。</li> </ul> <p>●主な事業内容</p> <p>○駅前広場管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費（電気、水道、下水道） 4,346,335円 犬山駅前広場（東西）、楽田駅東広場</li> <li>・犬山駅東西連絡橋維持管理業務委託 1,468,280円</li> <li>・犬山駅前広場維持管理業務委託 4,218,500円 清掃、除草、樹木剪定、花壇管理等</li> <li>・犬山駅昇降機保守点検委託 2,059,200円 エスカレーター2基、エレベーター2基</li> <li>・犬山駅前広場モニメント等保守点検業務委託 462,000円</li> <li>・犬山駅前広場公衆便所清掃委託 982,080円</li> <li>・楽田駅東公衆便所清掃委託 605,000円</li> <li>・駅前広場維持工事 14件 3,635,720円</li> </ul> <p>○犬山駅東西連絡橋改修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・犬山駅東西連絡橋改修工事 9,541,400円 外壁タイル等の改修</li> </ul>
事業の成果・効果	清掃などの日常管理、老朽化や事故などによる施設損傷の補修対応については適宜実施するなど、年間を通して駅利用者等が安全かつ快適に利用できるよう施設管理を行うことができた。

II : 個別事業内訳

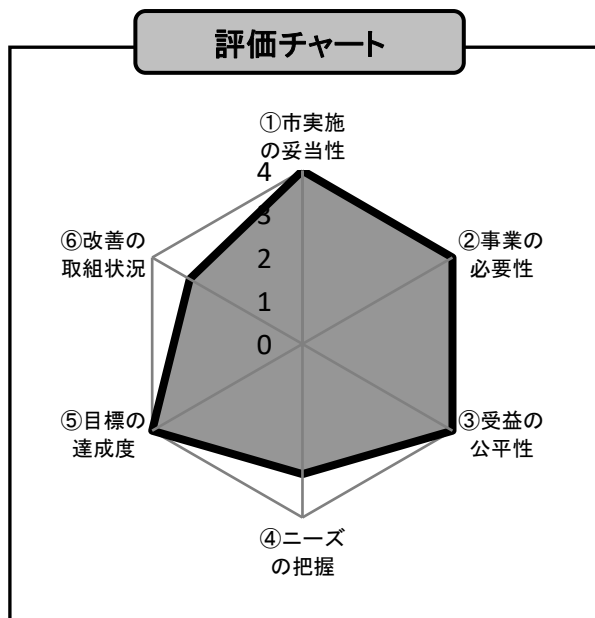
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
駅前広場管理	18,542	3,069	15,473	83%	3	3	3
犬山駅東西連絡橋改修	9,541	0	9,541	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	28,083	3,069	25,014	89%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		21,327	28,083	30,889
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	1,449	3,069	1,384
	一般財源	19,878	25,014	29,505
一般財源の割合		93%	89%	96%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	駅前広場は市管理地であるため、市が維持管理を行う。
②事業の必要性	4	駅前広場を安全で快適に利用できるよう維持管理をすることは、管理者として必須な事業である。
③受益の公平性	4	通勤、通学や観光客など、不特定多数の人々が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望書等により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	清掃などの日常管理を行い、施設損傷の補修対応については適宜実施するなど、年間通して駅利用者等が安全かつ快適に利用できるよう施設管理を行うことができた。
⑥改善の取組状況	3	予防保全的な改修工事を計画的に行うことで、ライフサイクルコストを軽減し、経費の平準化を図っていく。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	犬山駅東西連絡橋改修計画（R4～7）に基づき、東側階段部外壁タイル・西側エスカレーター部外装材の改修工事を行った。 高齢者や弱視の方の転倒防止のため、階段の段差をはっきり識別できるようにする標示シールを設置した。
令和5年度に見直しを実施している事項	犬山駅東西連絡橋改修計画に基づき、西側階段部外壁タイルの改修工事を行った。
今後見直しを検討する事項	エレベーターの老朽化が進んできており、劣化した部材の取替等を計画的に進め利用者の安全を確保する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
東西連絡橋施設の老朽化	東西連絡橋の定期点検結果を継続的に実施し、計画的な改修工事により、施設の長寿命化を図っていく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	1	道路維持費	304

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	交通安全総点検対策
事業目的	「通学路交通安全プログラム」に基づき、計画的かつ継続的に通学路安全対策を実施し、児童・生徒たちが安心して通学できる歩行空間の確保を推進する。
事業内容	<p>●事業の全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「通学路交通安全プログラム」に基づく整備に加えて、令和3年9月に学校関係者、警察、道路管理者等で実施した「通学路緊急合同点検」により抽出された危険箇所の整備を行う。</li> </ul> <p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○通学路安全対策工事 9件 (21箇所) 47,880,800円</li> <li>・通学路交通安全プログラムの令和4年度整備計画による (2箇所) <ul style="list-style-type: none"> <li>※グリーンベルト、カラー塗装、区画線</li> <li>市道前原線、市道楽田東81号線</li> </ul> </li> <li>・通学路緊急合同点検で抽出された危険箇所 (19箇所) <ul style="list-style-type: none"> <li>通学路交通安全プログラム重複分 → 令和5年度以降整備計画を前倒して実施 (7箇所)</li> <li>※グリーンベルト、カラー塗装、区画線</li> <li>市道富岡荒井線、市道善師野線、市道犬山337号線、市道小松寺線、市道楽田西21号線、市道犬山127号線、市道赤坂堂前線</li> <li>通学路交通安全プログラムと重複なし (12箇所)</li> <li>※グリーンベルト、カラー塗装、区画線、ガードパイプ、ポストコーンなど</li> <li>市道羽黒東177号線、市道前原朝日線、市道犬山29号線、市道木津5号線、市道一の宮線、市道羽黒東183号線、市道楽田西20号線、市道楽田西64号線、市道犬山81号線、市道犬山6号線、市道羽黒西27号線、市道犬山210号線外2</li> </ul> </li> </ul>
事業の成果・効果	「通学路交通安全プログラム」及び「通学路緊急合同点検」に基づき、グリーンベルト、カラー舗装、外側線設置などの安全対策整備が完了した。

II : 個別事業内訳

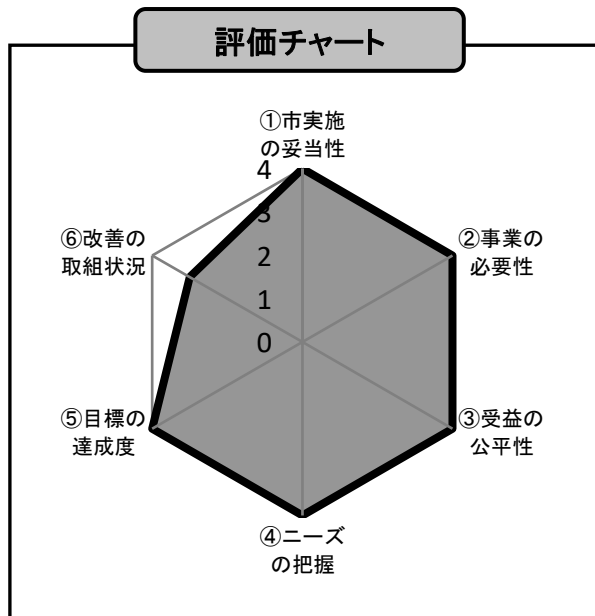
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
交通安全総点検対策	47,881	42,763	5,118	11%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	47,881	42,763	5,118	11%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		19,622	47,881	17,454
財源内訳	国県支出金	6,754	19,741	7,150
	地方債	4,900	14,500	6,400
	その他	0	8,522	3,904
	一般財源	7,968	5,118	0
一般財源の割合		41%	11%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	交通弱者である未就学児、児童、生徒にとって安心・安全な歩行空間を確保できるよう安全対策を講ずることは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の通学路が対象であり、通学する児童・生徒など市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	4	P T Aからの通学路安全対策要望等により、利用者の要望(ニーズ)を把握している。
⑤目標の達成度	4	「通学路交通安全プログラム」及び「通学路緊急合同点検」に基づき、令和4年度に予定していたグリーンベルト、カラー舗装、外側線設置などの安全対策整備が完了した。
⑥改善の取組状況	3	P T Aからの通学路安全対策要望の優先順位を考慮しつつ、事業の緊急性・必要性を判断して実施している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	学校関係者・警察・道路管理者等により「通学路交通安全プログラム」による実施事業の効果検証および計画の見直しを行う。 安全対策を継続的に研究し、効果的な手法を検討しながら安全対策を進める。
令和5年度に見直しを実施している事項	学校関係者・警察・道路管理者等により「通学路交通安全プログラム」による実施事業の効果検証および計画の見直しを行う。 安全対策を継続的に研究し、効果的な手法を検討しながら安全対策を進める。
今後見直しを検討する事項	「通学路交通安全プログラム」による整備箇所の追加更新による、新たな事業計画の策定。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
グリーンベルト、カラー舗装の維持補修	通学路の安全対策として、グリーンベルトやカラー舗装の要望が増加し整備を進める一方で、経年劣化により再整備が必要な箇所も見受けられるため、新規とともに再塗装など維持補修についても検討する。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	3	2	河川改良維持費	308

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	河川施設管理
事業目的	準用河川、普通河川、法定外公共用物（水路）、調整池及びその附属施設を健全に維持管理する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業の全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・準用河川、普通河川、法定外公共用物（水路）、調整池の附属施設を健全に維持管理する。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○河川施設管理                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気料金（上坂公園調整池外11、河川監視カメラ） 1,179,423円</li> <li>・高根洞工業団地水処理施設管理業務委託   <ul style="list-style-type: none"> <li>点検、分析等 9,822,355円</li> <li>薬品費、汚泥処理等 5,621,245円</li> </ul> </li> <li>・ポンプ保守点検委託（点検2回/年） 1,320,000円   <ul style="list-style-type: none"> <li>秋葉下調整池、上坂公園調整池、名犬公園貯留槽、</li> <li>内田防災公園貯留槽、小巾北調整池、上野東調整池、</li> <li>末友地下道、白帝橋地下通路、神小森橋地下通路</li> </ul> </li> <li>・堰等保守点検委託 832,700円</li> <li>・河川排水路維持管理委託（地元要望 草刈、浚渫等） 39件 13,785,838円</li> <li>・河川排水路維持工事（地元要望 維持補修工事等） 49件 10,451,320円</li> <li>・高根洞工業団地水処理施設維持工事 2,838,000円</li> <li>・雨水貯留浸透施設設置費補助金 雨水タンク設置：7件 156,200円</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
事業の成果・効果	河川、排水路や調整池等において、施設の運転管理や保守点検、除草や浚渫、補修工事を行うなど、適正に維持管理を行った。

II : 個別事業内訳

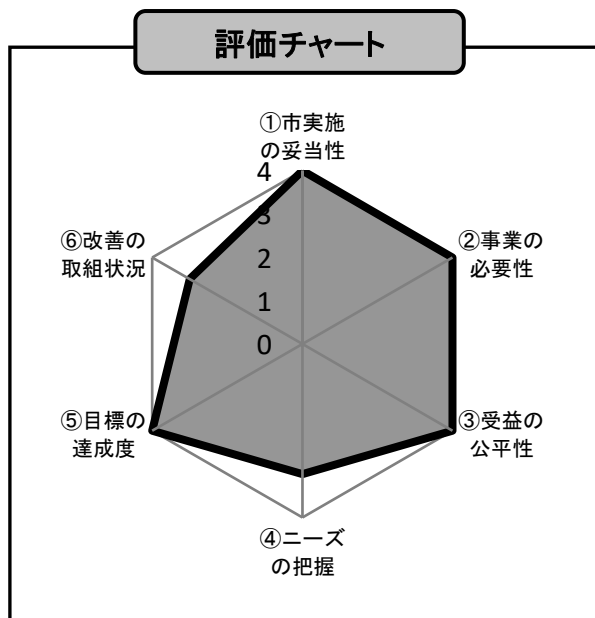
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
河川施設管理	46,230	5,236	40,994	89%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	46,230	5,236	40,994	89%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		49,800	46,230	50,499
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	4,573	5,236	4,106
	一般財源	45,227	40,994	46,393
一般財源の割合		91%	89%	92%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	犬山市法定外公共用物の管理に関する条例第2条の規定により、排水路等の管理は市が行う。
②事業の必要性	4	地域排水機能を維持するためには、排水路等の適正な維持管理を継続していく必要があり、事業継続は必須である。
③受益の公平性	4	市内全域の排水路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	地元からの土木要望により、利用者の要望（ニーズ）を把握している。
⑤目標の達成度	4	水路関係の令和4年度要望実施率は56.6%で、年度目標値40%を上回ることができた。
⑥改善の取組状況	3	施設の修繕については、保守点検により健全度を把握し、修繕計画を立て予算平準化しながら進める。 地元要望については、緊急性など優先度を考慮しながら事業を実施する。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	事業の実施時においては、妥当性、経済性等について見直しを行いながら進める。
令和5年度に見直しを実施している事項	事業の実施時においては、妥当性、経済性等について見直しを行いながら進める。
今後見直しを検討する事項	今後も事業の実施時においては、妥当性、経済性等について継続的に見直しを行いながら進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
地元ボランティア活動者の高齢化等による、河川・排水路の日常管理（清掃・除草等）の低下	コスト面を考慮しつつ、除草委託や張コンクリート・防草シート等による雑草繁茂抑制対策など現場状況に合った手法を検討する。 また、ボランティア活動を継続して頂けるよう支援策の拡大についても検討する。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	6	公園管理費	320

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	都市公園維持管理
事業目的	都市公園等を適切に維持管理することで、子どもたちの遊び場、健康維持増進、身近に自然とふれあう場や潤いのある空間とし、市民に提供する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業の全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市公園等の清掃、除草、樹木剪定、遊具等施設の点検および維持修繕など、安心・安全に使用できるよう施設管理を行う。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○都市公園等維持管理                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費（電気、水道、下水道） 4,418,864円</li> <li>・都市公園等維持管理業務委託 22,878,774円   <ul style="list-style-type: none"> <li>業者委託：石作公園、上坂公園、犬山丸の内緑地</li> <li>アメニティ協会委託：内田防災公園外11施設</li> <li>町内会等委託：都市公園、ちびっ子広場など133施設</li> </ul> </li> <li>・木曾川犬山緑地維持管理業務委託 1,870,000円</li> <li>・犬山ひばりヶ丘公園維持管理業務委託 8,943,000円</li> <li>・山の田公園維持管理業務委託 1,078,000円</li> <li>・遊具保守点検業務委託（点検6回/年） 2,376,000円</li> <li>・樹木剪定業務委託 8,868,200円</li> <li>・除草業務委託 5,298,700円</li> <li>・花と緑のあるまちづくり事業委託（花の苗植付・管理等） 2,728,000円</li> <li>・都市公園等維持管理工事（地元要望等） 89件 18,299,050円</li> <li>・公園灯LED化工事（天神森公園外） 3,520,000円</li> <li>○犬山ひばりヶ丘公園大型遊具改修                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・犬山ひばりヶ丘公園大型遊具改修工事 19,140,000円   <ul style="list-style-type: none"> <li>ジャイアントスライダー滑り口展望デッキを複合遊具に改修</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
事業の成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園を安全で快適に利用できるよう、年間通して施設管理を行っている。</li> <li>・遊具等については利用者の安全確保のため、定期点検を行い不具合の早期発見に努めている。点検結果に基づき、令和4年度に犬山ひばりヶ丘公園ジャイアントスライダーの改修工事を行った。</li> <li>・電気料金など維持管理費の削減を図るため、令和2年度から公園照明灯のLED化を計画的に進めており、令和4年度は43基（17公園）をLED化した。</li> </ul>

II : 個別事業内訳

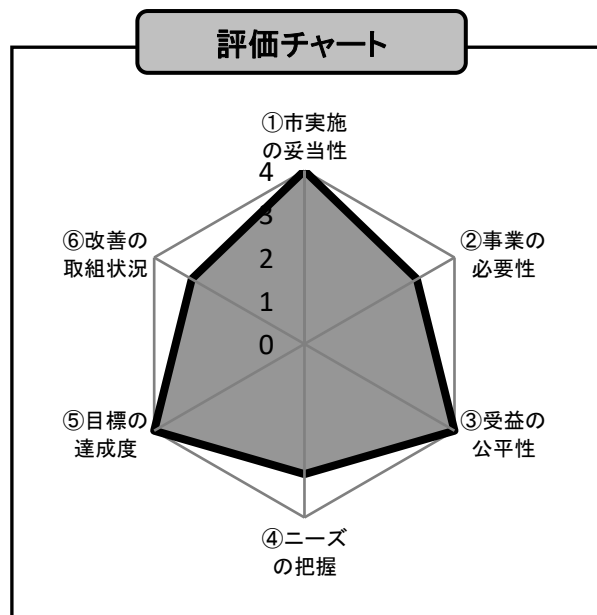
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
都市公園維持管理	86,679	5,914	80,765	93%	3	3	3
犬山ひばりヶ丘公園大型遊具改修	19,140	0	19,140	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	105,819	5,914	99,905	94%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		84,104	105,819	89,739
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	2,648	5,914	3,210
	一般財源	81,456	99,905	86,529
一般財源の割合		97%	94%	96%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	行政財産であり、市が主体で管理するもの。
②事業の必要性	3	市民の日常生活に直結しているものではあるが、非常時においては、最低限の維持管理とし、要望事業の縮小もやむを得ない。
③受益の公平性	4	不特定多数の人が利用し恩恵を受ける事業と考えられる。
④ニーズの把握	3	地元からの要望書により、利用者のニーズを把握している。ひばりヶ丘公園は、近隣市町からの来訪者も多いため、幅広くニーズを把握し、応えていく必要がある。
⑤目標の達成度	4	令和4年度公園要望に対する実施率は80.0%で、年度目標値80%を達成することができた。
⑥改善の取組状況	3	近年の厳しい財政状況の中、園内清掃や除草等については、現状の内容・回数の確保に努めている。また、遊具等については、年6回の保守点検結果や市民からの要望等を受け補修・改修を行い、事故等の発生防止に努めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	老朽化した犬山ひばりヶ丘公園ジャイアントスライダー滑り口展望デッキを複合遊具にリニューアルした。 都市公園照明灯LED化計画に基づき、天神森公園など17公園の灯具43基をLED化した。
令和5年度に見直しを実施している事項	令和6年度までの都市公園照明灯LED化計画を1年前倒し、令和5年度で完了する。
今後見直しを検討する事項	都市公園等の魅力向上に向けて、引き続き検討を行う。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
公園施設の老朽化対策	公園施設の老朽化が進み、植栽管理も厳しい状況であるが、継続的な利用者への安全対策は必要であり、管理内容の優先順位付けなど効率的な管理方法を確立する必要がある。



令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	2	1	道路橋梁施設災害復旧費	398

部局名	都市整備部
課名	土木管理課

I : 事業概要

施策事業名	道路橋梁災害復旧
事業目的	集中豪雨、台風等の自然災害により被災した道路、橋梁施設を迅速に機能復旧する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主な事業内容</li> <li>・自然災害により被災した道路、橋梁施設の復旧に係る現地測量・調査及び設計等の委託業務</li> <li>・災害復旧工事の実施</li> <li>●決算の内訳</li> <li>・道路災害復旧工事 10件 3,457,300円</li> </ul>
事業の成果・効果	集中豪雨、台風等の自然災害により被災した道路を迅速に機能復旧することができた。

II : 個別事業内訳

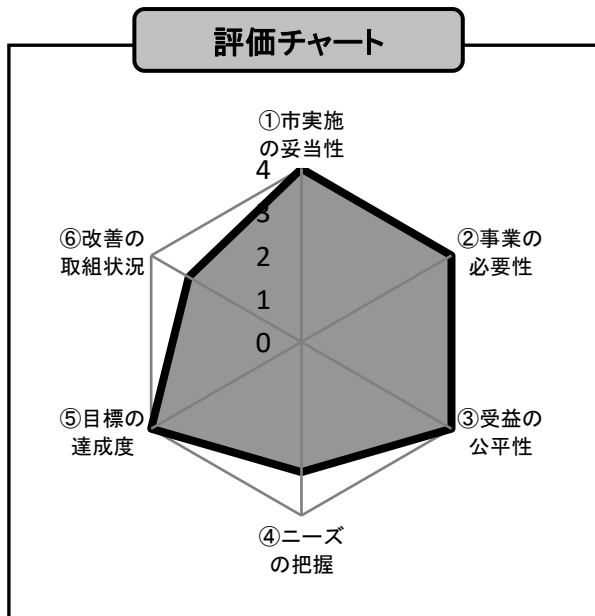
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
道路橋梁災害復旧	3,457	0	3,457	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	3,457	0	3,457	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		-	3,457	12,000
財源内訳	国県支出金	-	0	0
	地方債	-	0	0
	その他	-	0	0
	一般財源	-	3,457	12,000
一般財源の割合		-	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法16条の規定により市道の管理はその路線の存する市が行う。
②事業の必要性	4	ライフラインである道路施設を適正に管理することは行政の責務であり、必須な事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の道路等の事業であるため、不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	災害復旧については、早急な対応を要望されている。
⑤目標の達成度	4	災害復旧という事業の性質上、年度当初に数値的な目標・計画を立てられないが、今年度発生した被災箇所の復旧については、迅速に対応することができた。
⑥改善の取組状況	3	補助金活用による財源確保や、工法検討、効率的な事業実施などによりコスト削減を図る。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	原形復旧が原則ではあるが、状況に合わせて形状・寸法・材質・構造などを的確に判断し復旧を行う。 緊急時の体制、優先パトロールルートの見直し
令和5年度に見直しを実施している事項	原形復旧が原則ではあるが、状況に合わせて形状・寸法・材質・構造などを的確に判断し復旧を行う。 緊急時の体制、優先パトロールルートの見直し
今後見直しを検討する事項	原形復旧が原則ではあるが、状況に合わせて形状・寸法・材質・構造などを的確に判断し復旧を行う。 緊急時の体制、優先パトロールルートの見直し

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
被災箇所の迅速な復旧	担当職員を災害研修会等へ積極的に参加させるなど、災害発生時に迅速な対応ができるよう災害復旧事業に関する技術力向上を図っていく。